

紙本

信條

本紙は本社の私有にあらず、社會共有の公的言論機關也。常々紙面を開放して何人の爲めにも其利用を快諾し特ニ主として實業界の機關となり努めて實益を主眼とす。

本紙は絕對不可侵の權威を以て論議公正にして愚劣無價値の記事を探らざる磐城地方唯一の

瓦

明證

六圓五拾錢

番五

店

擇

所進

町北字

店次

文

磐城

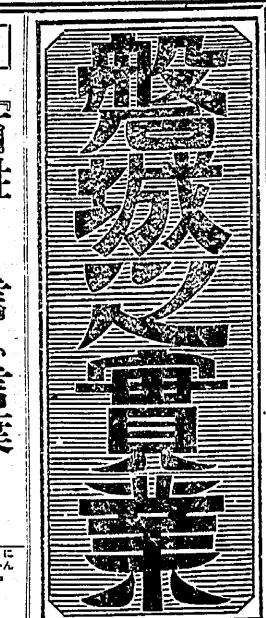
之實業社

の

本紙は絕對不可侵の權威を以て論議公正にして愚劣無價値の記事を探らざる磐城地方唯一の

本紙は私有にあらず、社會共有の公的言論機關也。常々紙面を開放して何人の爲めにも其利用を快諾し特ニ主として實業界の機關となり努めて實益を主眼とす。

本紙は絕對不可侵の權威を以て論議公正にして愚劣無價値の記事を探らざる磐城地方唯一の



行發日五廿 日十(回二)月每

價 印刷人 大和田與平

總經理 阿部金一

發行所 殿城之實業社

電話三三三

伍萬料一箱一千九百錢

一部金八錢郵費共

一年半分一四九十六錢

本社の忠言を入れた
磐城共濟病院の廣告

いはらき紙は訂正したるも
其の改正せぬは不都合なり

此の廣告はいはらき新聞盤
版二十日の紙上に掲載さ
れたるものであるが從來の新
聞廣告は左記の通りにして
其の訂正を見ざるもの
を遺憾とするものである
を遺憾とするものである

内科 (過毎) 小兒科 (毎日) 副院長 鮎川喜四郎
内科 (日) 順頤 (毎週日曜) 東京醫學博士藤井秀也
耳鼻咽喉科 (日) 耳鼻咽喉科 (日) 千葉醫學博士藤井信
産婦科 (日) 産婦科 (日) 産婦科 (日) 産婦科 (日)
外科 (日) 外科 (日) 外科 (日) 外科 (日) 外科 (日)
眼科 (日) 眼科 (日) 眼科 (日) 眼科 (日) 眼科 (日)
歯科 (日) 歯科 (日) 歯科 (日) 歯科 (日) 歯科 (日)
薬剤 (日) 薬剤 (日) 薬剤 (日) 薬剤 (日) 薬剤 (日)
婦人科 (日) 婦人科 (日) 婦人科 (日) 婦人科 (日) 婦人科 (日)

日給三十錢の炭礦職工

今は百萬長者の賣藥王

II 地方出身者の成功美談

○精力旺盛のトツカビン
と云へば津々浦々までに其波貞造氏の長男に生れ大正
の名を知られて居るか製鐵元となる東京銀座新橋白井達平
がより約拾數年前は多

あるまい。

英長者の紳士となり厥の女将は局の交換手に不親切の者が
居るがいくら局長の姫だといふ

の女将は局の交換手に不親切の者が

居るがいかにも男の事である

はその女全體と

しては多くを言ふまい

江戸に付

るのに男の妻を忍ぶ

在し其妻の夫食頭の石化は此の

一職工であつたので

よい歩いたもの

素より立派なる

大金で尋常手段で出来様

の金を度どり立派なる

世相雜論

□解決上の一考案
最近小作争議の根本的策として某所に研究さるものがある。其の考案は地主の所有する土地をの所有者たりし今の小作に相當代價を以て譲渡するものである。其の考案は地主の所有する土地を自作農たる地位に引上げ作人は此の新なる境遇地に對する執着により改良し極力勞農する結果を見て今のが地租の方法は現在の小作料二分を其の土地の價格と減を加へる之が公平のだと云ふのである而し地に對する執着により改良し極力勞農する結果を見て今のが地租の方法は現在の小作料二分を其の土地の價格と減を加へる之が公平のだと云ふのである而し地に對する執着により改良し極力勞農する結果を見て今のが地租の方法は現在の小作料二分を其の土地の價格と減を加へる之が公平の

一夫多婦

新語解說

くわからなかつたさうせ
で食べただけ作っておけよ
いと考へる者が多くな
たそこにあるの千九百二十
二一年の大饑饉が來た此が
るといふことがわかつたこ
民は餓死に瀕したために
産を全然否定する程の共
主義を行ふことの無理で
云ふことに決したこれが
謂「新經濟政策」である
シア共産主義の反対者は古
身が自由に賣買してよし
に應じて税金を取り立て
に示した萬國の勞働者
級は戦争は有產階級の經
済的利慾心を満足させら
行はれるもので無產階級
には何の益もない殘忍な
爲であると云ふことを知
とも決して参加しまひぞ
たかくて世界の無產階級
は戦争に反対する爲に
日々は戦争に反対する爲
には何の益もない殘忍な
爲であると云ふことを知
とも決して参加しまひぞ
主義とあくまで戦はなく
はならぬ」と云ふに至つ
「地租移讓」我が國の地
は約七千萬圓であつて從
しこれを國庫に收めて來た
何分近來著るしく地方財
政を困難するに至つたのに
しこれを地方稅源に譲つて
以て地方經濟を救濟しや
するものなのである。
農民運動農民の解放

三
面
ト
ン
コ

貧乏の末路

を背負ひ九つになるちよ
五つになるあきの二人の
を引いて死に坊所を探す
くしよんばかり家を出たの
ある。あはだしたじよ
其夕方下続馬村の山林の
で松の根方に腰を下し無
のとみにちこを飲ませて
る彼女を見かけた者があ
たと云ふ無情な母の乳房
するがる幼兒のかごけない
の見入つた彼女の目から
熱い涙がどめどもな
落ちたことであらう。
かくて十六日の夜は冷
い煙に四人相擁して最後の
露はしつとりと着のみ翁
まゝの衣類をぬらしただ
死を決した彼女にどうし
ての窮屈をのぞいてはま
ても涙にかきくれた。
親！それとも知らずに空
に疲れて眠りに入つた夢
け始めた鬼のやうな心に
つた彼女の手には兵児帯
さがし出された。翌十七日午前
こうして夜はほのぼのと
に横たはつてかつの窓家
檢視が終つてかつ程遠からぬ鐵道線
續いて程遠からぬ鐵道線
に横たはつてかつの死體
も引取人かなく薄命な
の魂は粗末な白木の棺
を發したが貧困で引取
られて来る事が出来ない
云ふことであつた三児のみ
は、何といふ痛ましい不合
がん底に埋められた人間
連るべき途死あるのみ
附近の嚴寺に埋られた
十五番地へ板橋署から照
を出したが、永久に浮ぶ懶のない貧乏
は世の中であらう。

日本銀行支店の管轄なる東北四縣の金融状態即ち銀行貸出し職業別及び担保別調査による四月末現在に貸出し額は二億一千六百二十七萬七千圓に上り職業別からすると米、雜穀は一千二百六十二萬圓生糸及び三萬圓織物、吳服は一千五百七十九萬五千圓、製造は一千二十八萬圓、農業は百四十八萬二千圓電氣及び瓦斯は一千二十九萬一千圓、農業は二千二十一萬二千圓金融業は二千七百二十九萬二千圓その他七百六十萬となつて各業による振否も自から推測するこゝが出来るやうだ。前五年度からくるべく證券は六千九十九萬五千圓有り、他の是三百九十一萬四千圓を占め不動産は五千六百一一千圓、不動産は五千六百一一千圓を算するもので一千九千圓を算するもので一千八十二萬九千圓の首位を占め不動産の一千七百四十二萬一千圓が第二位で有り前年同期よりは増加の一途に進んでゐる然して本縣の内國債は三千九百三十二萬五千圓である。

瓦トンメセ

明證校
獨逸型(全
上)
六圓五拾錢
番五三四話電町南町平
社業工瓦洋正大
作ノ中町名江
臺仙日本型(音上坪)
臺等品六圓五拾錢
四圓五拾錢
電話一一四番

磐城病院
内科・外科・小兒科
皮黴科・婦人科
磐城平町

時は來れり
遊びませう、そして樂まん
◎當泉は吾妻山腹にありて登山に便利
信夫郡高湯温泉
新館落成 館主後藤寅治

建土木請負業

只野忠康
平町南町
御紋印半布
達部用附
番八三話電田平城鑑
塙工染野草

元造釀
店本屋吉松
村窪平郡石
番一四二電話

是非御注文を願ひます。
市内は大小に係らず直ちに配達す。
御一報次第直ちに御伺ひ致しま
す何卒多少に拘はらず御用命御
利用下さい

川瀬炭礦常礦業所
石城郡赤井村
平町三丁目

駒場四郎商店
田町六番五
町四電話

仙臺市東一番丁(電話一五九五番)
民刑事(辯護士)
控訴専門(辯護士)
赤城茂

切親
關内喜久次郎
平町紺屋町
電話一三八番

精料材
強勉大
所進調子菓御
町北字町名江郡城石

良品廉賣に勝る商略なし
和洋銅鐵
金物問屋
磐城セメント株式會社
平町南町通(電四一八番)

佐川洋服店營業部
佐川洋服本店
平町三丁目(電九番)
振替時金口座東京一〇九五六

產婆草野ナツ
佐川洋服店
平町白銀町十一番地
平劇場前通の東隣り

佐々木健一郎
福島縣平町四丁目
吉田材木店
電話三五二番

地方愛讀者へ
磐城之實業社
(平町古鎌治町)

中山岩を大勉強に
販賣致します
△建築用として
△石垣用として
藤田七丁目

清光堂分店
乾康次
平町搔槌小路
電話三一五番

書籍雑誌
學用事務用家庭及社交用
藤田七丁目

ぬる湯溫泉
福島縣信夫郡水保村
湯溫泉館主一階堂伊藏
吉田材木店
電話三五二番

●春秋は紅葉錦水の美あり
●冬はスキーカー無二の好所
●月掛及日掛の勝負法もあり御利用下さい
●質生主義の家具有に御信用を戴きたいのです